

シリーズ

東久留米の学校史

その5

分教場の整備

昭和3年(1928年)4月、前沢の久留米小学校に新築校舎が完成し、運動場(当時は体操場)も整備されて、新旧校舎を併せ持つ本校の設備は大変充実したものとなりました。その際、これまで使われてきた西分教場と東分教場も大幅な見直しが行われ、久留米村の初等教育施設はほぼ完成したといえます。

2つの分教場は昭和22年(1947年)に西分校、東分校と名称を改めますが、特に西分校は昭和40年台まで使用されていたため、今でもその思い出を語る人が多くいます。

←西分教場の新校舎(昭和3年撮影)

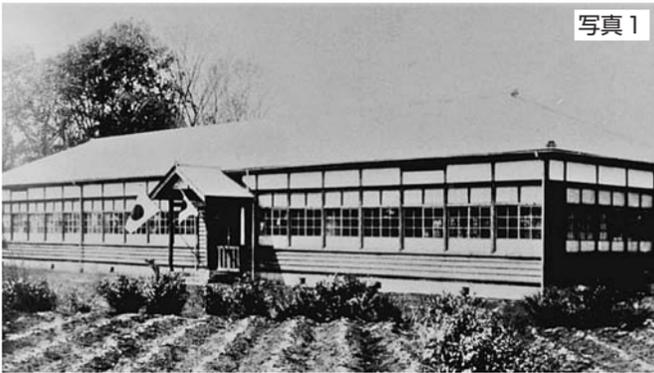


写真1

村役場は相変わらず西分教場(成蹊学校)内に間借り状態が続き、その経緯については村会議事録には次のように記されています。「如斯ノ不便ヲ生徒ニ感セシムルハ実ニ氣ノ毒ノ至リナリ故ニ差当リ右両校ノ高等科ニ学年迄ヲ併置シ役場用建物ヲ修繕シ以テ仮校舎ヲ充用セバ費用モ俄ニ増加セシテ本村ノ負担ニ堪ヘザル様ノ事不ナカルベキ具合ナリ(明治36年村会議

〔西分教場の新築〕明治17年(1884年)に前沢村609番地(現八幡町二丁目10番)に「成蹊学校」として建築された校舎は、明治39年(1906年)に久留米尋常高等小学校の本校が開校した時に、久留米小学校西分教場として、村の西側地域の尋常科低学年が学ぶ場となりました。

この分教場の特徴は、明治22年(1889年)に久留米村が誕生した際に村役場としても使われたことです。玄関正面の部屋で役場事務が行われたため、分教場として使える面積が狭くなってしまいました。そこで昭和3年の本校舎整備と合わせて西分教場の大改築が行われたのです。実は村役場と学校の関係については、幾つかの逸話があります。明治36年(1903年)に就学児童の増加と高等科の設置による学校施設の整備が急務となり、前沢357番地にあった旅館の「江戸屋」を仮校舎としたのですが、この建物は本来は新しい村役場として使つために購入計画が進められていたのです。それを学校施設に転用したため、



図1

高等科がないことにより、生徒に不便を感じさせるのは気の毒だから、役場用建物を修理して仮校舎として使いましょう、という村会の結論でした。このようなことから、当時は教育設備の充実が村の最優先課題であったことが理解されます。

こうした中、昭和3年の施設見直しに伴い、西分教場も大きくその姿を変えます。まず、旧分教場の東側に3教室と職員室を持つ木造スレート葺(ふき)109坪の新しい校舎が建設されました(写真1)。そして旧分教場の建物は、コ型の南側教室を解体し、北側の48坪をそのまま残して新村役場としたのです。

←昭和41年撮影の西分校



写真2

南沢交番付近に移転して新築されました。木造スレート葺平屋で、3教室と職員室をもつ約110坪の西分教場とほぼ同規模の校舎でした。その後、分教場の西側には昭和10年(1935年)に設立された久留米青年学校が

↑西分教場と村役場(昭和18年の地図) 広い道が所沢街道。現在の「のみ対策課の場所。(多摩地形図・下里)株式会社之潮刊(「東久留米の近代史」)より)

こうして古い建物の改築とはいえ、初めて独立した村役場が誕生しました。ここでも学校が優先されたのです(図1)! 文印が新西分教場、○印が新村役場。

西分教場は、戦後の昭和22年に久留米小学校西分校と名称を改め、昭和43年(1968年)に閉校となるまで多くの子供たちを見守り続けました(写真2)。

〔東分教場の新築〕明治18年(1885年)に南沢673番地、多聞寺の西側に「共立学校」として建設された校舎は、その後、明治39年(1906年)から久留米尋常高等小学校の東分教場として活用され、村の東側地域の尋常科低学年が学ぶ場となりました。

建設されました。戦後の昭和22年(1947年)には青年学校の建物が新制久留米中学校となり、東分教場も久留米小学校東分校と名称を改め再出発します。さらに昭和25年(1950年)には200mほどの西の現第三小学校(中央町一丁目16番)の場所に新たに建てられた校舎とそれまでの分校の建物を中学校に使つために交換して移転、後に第二小学校分校と名称変更し、最終的に昭和37年(1962年)に第三小学校になりました。

このように東分教場は、その場所を転々と変えながら、共立学校→久留米小学校東分校→久留米国民学校東分校→久留米町立第二小学校分校→久留米町立第三小学校として、長く東久留米の初等教育を担ってきたのです。

(本文は山崎文・市文化財保護審議会委員による) ※訂正 前号の4段6行目「明治21年(1888年)」は「明治24年(1891年)」の誤りでした。訂正してお詫びします。

詳しくは生涯学習課文化財係 ☎472・0051へ。

教育委員が再任されました



尾関委員

教育委員会委員の尾関謙一郎氏が、平成29年第1回市議会定例会において議会の同意を得て、再任されました。任期は平成29年3月1日から32年9月30日までです。

再任に当たって 尾関 謙一郎

今年の3月から、教育委員として2期目を迎えていただきました。1期目は教育委員長も務め、東久留米市の教育に貢献する喜びを味わっていただきました。

2期目は、子どもたちの体力向上やグローバル化に備えた英語力の増進、数学力等の課題を考慮しつつ、特に、学力のもととなる国語力向上に、さまざまな機会を捉えて、注力したいと思います。

これまでの新聞記者としての経験や大学で教えていることを生かし、市民目線を忘れず、東久留米市のあらゆる力を子どもたちの教育に注ぎ込むという意気込みで、保護者や先生方と力を合わせていきたいと考えています。

小学校の英語の授業が大きく変わります

平成32年度から、小学校で全面実施される次期学習指導要領では、「英語」が教科として取り入れられることが決まっています。本市では、子どもたちが円滑に移行できるよう、外国語活動及び英語科(仮)の授業時数を段階的に増やしています(表参照)。社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから、学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題であるとされています。小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることが重要です。

現在、「Hi, friends!」「Hi, friends! Plus」(文部科学省)や「Welcome to Tokyo」(東京都教育委員会)などの

教材を使って、英語活動並びに外国語活動の授業を行っています。また、平成30年度までに文部科学省から、移行措置期間用の教材が提供されます。市内各小学校では、英語リーダーを指定し、外国語活動・英語科の充実に向けて、校内の整備を進めています。市全体でも、英語教科化の対応研修を実施し、教科化に向けて教員の指導力向上に努めています。

これまで、小学校外国語活動の時間にコミュニケーションを体験的に学んでいることで、英語で聞き取った内容が全て理解できなくても、何を伝えようとしているのかを分かろうとする姿勢が育つといった、良い効果が出ていました。小学校から中学校、高等学校への連続性も視野に入れながら、外国語活動及び英語科の先行実施を進めていきます。

詳しくは指導室 ☎470・7781へ。

Table showing English lesson unit time changes from Heisei 28 to Heisei 33. It details the increase in units for various grades and subjects over time, including a note about the implementation of English activities in elementary school.